

1 日 時 令和4年1月18日(金) 19:00～20:00

2 場 所 図書室

3 協議内容

(1) いじめの状況について

- ・学校はいじめを隠そうとする、「いじめ」と認めない傾向がある。
もっとオープンにしていくべきである。
- ・6年生の物がなくなる事案について
クラスで話し合いを行い、しっかり考える時間をもたせ、一人ひとりに実感させるべきである。
周りの子のメンタルケアも必要である。
やった子も指導していかないと今後も心配である。
クラス保護者全員に知らせていくべきである。それによってやっている本人も大変なことだと気づく。また、学校が情報を流すことで、保護者からの情報が集まる。

(2) コロナの状況と対応について

- ・11歳以下の接種については、小児科医でも意見が分かれている。学校生活を通常に続けるためには、ワクチンは必要といえる。
ワクチンの長期的な影響が心配されているが、スマホを乳幼児に見せることの長期的な影響を分かっていないのと同じことである。
- ・黙食などが子どもにどのような心理的影響を受けているのかの検証も必要である。
- ・コロナで自宅待機の場合、リモートでの授業への参加や、学習課題の配付等で対応していく。
- ・授業参観がなくなっているので、リモートで参観したい。しかし、個人情報保護があるので難しい。

(3) 学校評価について

- ・学校運営協議会に参加して初めて知ったことが多い。会議の内容を他の保護者にも知らせていくとよい。
- ・もっと親を巻き込んでいくとよい。クラスメールで「こんなことがありました。」と知らせてもらえば、家庭でできることがある。
- ・公教育の難しさを感じる。たくさんの項目があってすべてをやることはできない。校長が強い権限をもって進めるところがあってもよい。
- ・ボランティアに参加することで学校の用紙を知ることができたり、直に児童と話することができたりする。自分の子どものトラブル解決にもつながった。